

1 小針中学校図書館と生徒の実態

生徒数	792 名 (R5.5.1 現在)
学級数	通常学級 23 特別支援学級 6
蔵書数	17,838 冊 (R5.12 月末現在)
貸出冊数	3,221 冊 (R5.12 月末現在)

(1) 図書館の現状

ア 図書館の位置

- ・図書館は管理棟 3 階の端にあり、2 階にある教務室の真上に位置している。生徒は教室棟から渡り廊下を通らないと図書館に来ることができない。一番離れた教室から図書館まで 5 分くらいかかる。

イ 図書館の利用

- ・昼休みや放課後の利用は、いわゆる常連のような特定の生徒が多い。ほとんど図書館を利用したことのない生徒もいる。
- ・授業での利用は多いとは言えない。
- ・図書館で勉強する生徒も多少いる。

(2) 生徒の実態

- ・全体的に落ち着いた学校生活を送っている生徒が多い。しかし、読書に対しては、本をよく読む生徒とほとんど読まない生徒の格差が大きくなっている。

2 図書館運営の方針と指導の重点

(1) 基本方針

- ・読書を通じて豊かな人間性を養い、図書資料の選択、活用を通して必要な情報を収集・整理し適切に活用する能力を養う。

(2) 指導の重点

- ・学校図書館の利用を通して、望ましい読書習慣の形成を図る。
- ・蔵書内容とレファレンス（「照会」「参照」）の充実を図る。
- ・より多くの図書資料を活用できるよう支援する。
- ・図書委員会活動の活性化を図り、読書に対する興味・関心を高める。

3 具体的実践事項

(1) 読書センターとしての取り組み

ア 1 年生の POP 作成（夏休み課題）【新規】

読書に対して興味を持ってもらうために、全国規模の POP コンテスト(ポプラ社 2023 全国学校図書館 POP コンテスト)に 1 年生全員が応募。2, 3 年生は希望者のみ応募 (教科国語)。

イ 図書委員会による様々な企画を通して、生徒が読書に親しみをもてる環境作りを進めている。【継続】



## (2) 学習センター・情報センターとしての取組

### ア 保健室に図書の設置【継続】

- ・学年の保健指導に合わせ、指導が行われる時期に保健室で、性・心・体・病気など、健康に関する図書を設置。関連図書も設置。

例：1年 歯肉炎予防教室 2年 デートDV予防教室 3年 性に関する健康教室

### イ 本の返却BOXの設置【継続】

- ・学校行事の準備・練習時期に、本の返却をする時間を確保するため、教室棟1階から4階の渡り廊下付近4か所に「本の返却BOX」を設置。設置、回収は図書委員の活動。



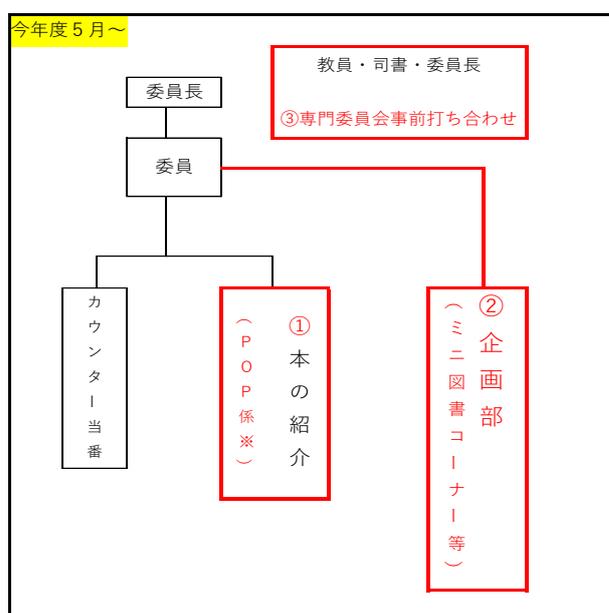
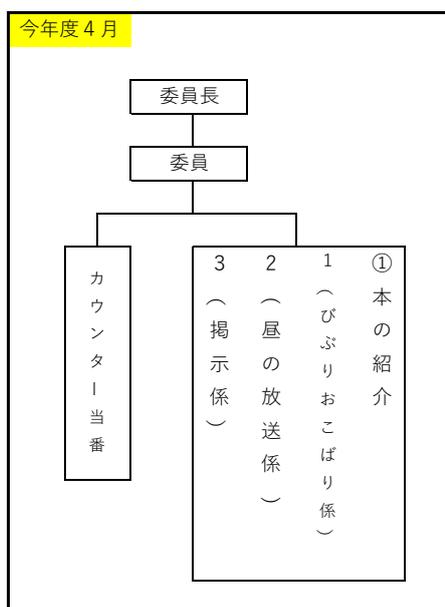
「本の返却BOX」

## (3) 図書委員会との連携

### 図書委員会組織や係の内容等の見直し

**理由①本の紹介について** 前年度の本の紹介方法（昼の放送・びぶりおこぼり）では、ほとんどの生徒が聞いていないこと、またびぶりおこぼりの掲示物も読んでいないことが判明。紹介方法をPOP紹介に替えた。**理由②企画部について** 今年度から図書館利用者を増やすため、新たにミニ図書コーナーを設置。その活動のための部署。メンバーは、12名。**理由③専門委員会事前打ち合わせについて** 図書委員の活動が一つ増えたことで、専門委員会1回の活動時間が1時間以上になってしまった。活動時間短縮のため、事前に教員・司書・委員長の3人で綿密な打ち合わせをした。

- ・組織図は下記の通り。



※小針中のPOPとは、書店・図書館などの紙製卓上型POPではなく、教室のモニターに映す電子POPを指す。

### ア 図書委員会によるクラスでの本の紹介（POP係）【新規】

- ・各図書委員によるクラスでの発表。（前期3回 後期3回）  
各クラスの図書委員がクラス設置のモニター（大画面）を使って本を紹介。ロイロノートのカード上に書影と紹介文を載せる。選書も紹介文も生徒達が、グループごとに相談して作成する。



<活動の流れ>①図書館の本を選択 ②モニター用画面を作成 (iPad) ③委員長・司書・教員チェック④委員長から全委員へ送信 (iPad) ④全クラス同じ日の帰りの会で発表 (2分程度)



「ぎりぎりの本屋さん」著者 まはら三桃 講談社

成果：今まで昼の放送や「びぶりおこぼり」の掲示物で本の紹介をしてきたが、ほとんどの生徒が放送を聞かなかったり、掲示物を見なかったりしていた。しかし、モニターを使ってクラスの委員が直接本の紹介をしたところ、ほとんどの生徒が本の紹介に耳を傾けるようになった。

## イ ミニ図書コーナーの設置による本の展示(企画部)【新規】

- ・図書館が生徒の動線上になく5分かかる教室もあるため、生徒が一番よく通る廊下にミニ図書コーナーを設置。いつでも気軽に手に取って読めるようにした。前期は、授業に関する本や最新の新聞記事などを、後期には授業に関する本だけでなく先生方からのおススメ本の紹介もした。(月1回程度)

展示した本の一部 (6月の例)

「トリックアート図鑑だまし絵」	北岡明佳・監修	あかね書房	(国語：1年)
「だまし絵・錯覚大事典」	椎名健・監修	あかね書房	(国語：1年)
「ゴリラは語る<15歳の寺子屋>」	山極寿一・著	講談社	(国語：3年)
「サッカー止める蹴る解剖図鑑」	岩政大樹・著	エクснаレッジ	(体育：全学年)
「サッカー守備解剖図鑑」	風間八宏・著	エクснаレッジ	(体育：全学年)

<活動の流れ>

- ① 本選び。月1回の専門委員会活動後、企画部が翌月の授業内容から、本を選ぶ。
- ②おススメコーナーに吹き出し作り。各自で目を通した後、それぞれの本のおススメ箇所にメッセージを書いた吹き出しを付ける。後期：先生方におススメ本の依頼文も作成。
- ③ミニ図書コーナーに展示。前回の展示の本を回収し、今回分を展示。ミニ図書コーナーの整備(机に布かけ、ホワイトボードの設置、季節の装飾)



成果：ふだん図書館に足を運ばないような生徒達の立ち読み姿がたくさん見られた。特に人気だったのが、教科に関する本やスポーツ(サッカーや野球)に関する本だった。

## 4 小針中学校区小中連携

### (1) 令和4年度までの取組

- ・ZOOMによる情報交換会を開催した。(令和5年2月)
- ・オリエンテーション資料を交換した。

- ・6年生向けに中学校の図書委員が図書館紹介の掲示物を作成し、小学校に配付した。

## (2) 令和5年度の取組

### ア 小針中学校区小中連携図書館部会会議の開催（令和5年6月23日）【新規】

- ・6月23日（金）に小針中学校区小中連携図書館部会会議を開催した。各校の図書館主任、図書館司書が出席し、小中連携事業の取組案の検討、情報交換を行った。

### イ 小針中学校区として目指す児童・生徒の姿/テーマの設定【新規】

- ・アの会議で、学校図書館活用推進事業で目指すものを話し合った。小針中学校区として目指す児童・生徒の姿/のテーマを「本を通してよりよく生きる」とした。共通のテーマのもとに連携を図ることを確認した。

- ・9月以降、テーマの掲示物(大きさ 80 × 110 cm)を各校で掲示した。



「図書館内に掲示したテーマ」

### ウ 中学校1年生が小学生時代に読んだ「おすすめ本」紹介【新規】

- ・11月に中学校1年生にアンケートを取り、結果を各小学校に送った。

#### 《アンケートの結果》

以下の枠内にタイトルやシリーズ名で挙げられたものを多い順に記載した。

具体的な著者や出版社が特定できなかった本もある。

- |                    |                |                 |
|--------------------|----------------|-----------------|
| 1位「ふしぎ駄菓子屋銭天堂」シリーズ | 廣嶋玲子・作         | 偕成社             |
| 2位「竹取物語」(かぐや姫)     | 3位「名探偵」シリーズ    | 4位「歴史マンガ日本の歴史」  |
| 5位「ぼくらの七日間戦争」宗田理・作 | ポプラ社           | 6位「5分後に意外な」シリーズ |
| 7位「ざんねんないきもの」シリーズ  | 8位 絵本「11ぴきのねこ」 | 馬場のぼる こぐま社      |

- ・各小学校で「小中連携コーナー」を作り「おすすめ本」を紹介した。

- ・小学校からは「おすすめ本」に関する感想が届けられた。高学年だけでなく低学年の児童からも感想や紹介した本に共感する意見が寄せられた。

### エ 中学校「図書館紹介動画」の作成、小学校「お礼の動画」の交換【新規】

小学校と中学校の図書館の違いを6年生に伝えるため、図書委員が6年生に向けて、中学校の図書館紹介動画を作成。動画を視聴した6年生が感想やお礼を中学校の図書委員に届けてくれた。



「動画画面の一部」

## 5 成果と課題

### (1) 成果

本校の教育目標における【実現の基本方針】は「生徒の自治力と自己決定力を高める」である。図書委員会を活かした新たな取組をすることにより、生徒の自治力と自己決定力を高める活動につながった。クラスでの本の紹介やミニ図書コーナーの設置などの活動では、コミュニケーションの能力の向上、人によりよく伝えようとする表現力をはぐくむことができた。また、中学校「図書館紹介動画」の作成では生徒が自主的・主体的に考えて活動した。動画のやりとりでは、小学校との連携を更に深めることができた。

### (2) 課題

- ア 今年度の取組を定着させ、次年度につなげていくこと。新たな取組は試行錯誤の連続でスムーズにいかないこともあったが、来年度は計画的に活動できるようにしたい。

- イ 今後も図書館教育の小中連携を継続していくこと。時間確保の難しさはあるが協力しあいながら、よりよい小中連携を検討していきたい。